

仁摩道の駅（仮称）整備構想

平成27年9月

島根県大田市

【 目 次 】

1. 道の駅整備の目的	2
2. 計画コンセプト	4
3. 計画候補地と規模	5
4. 導入機能の整理	7
5. ゾーニングの基本方針	12
6. 整備・管理手法の検討	13
7. スケジュール	16

※この構想は、当市が仁摩地内に道の駅を整備するにあたっての、
基本的な事項と方向性を定めたものである。

1. 道の駅整備の目的

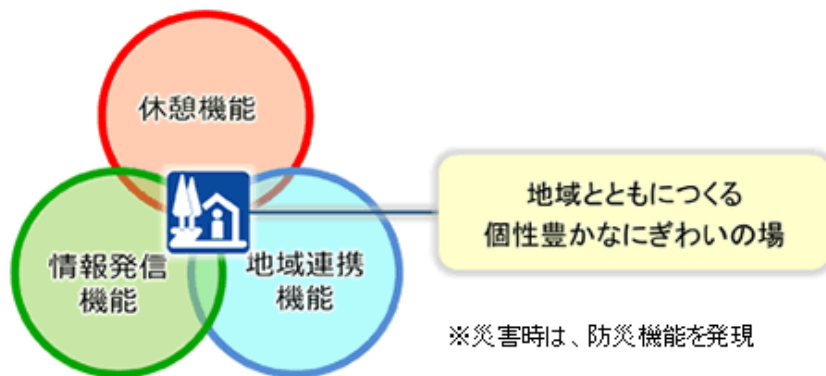
(1) 「道の駅」とは

長距離ドライブが増え、道路交通の円滑な「ながれ」を支えるため、一般道路にも安心して自由に立ち寄り、利用できる快適な休憩のための空間が求められるようになった。こうしたことを背景として、道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけに活力ある地域づくりを共に行うための「地域連携機能」、の3つの機能を併せ持つ休憩施設「道の駅」が誕生した。制度発足から20年、全国各地に広がり、現在、全国で1059の施設が登録されている。

当初は、通過する道路利用者へのサービスが中心だったが、近年は、農業・観光・福祉・防災・文化など、地域の個性、魅力を活かした様々な取組みがなされている。これからは「地域の拠点機能の強化」を重視し、「道の駅」自体が目的地となることが期待されている。

【道の駅の機能】

休憩機能	・24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ
情報発信機能	・道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供
地域連携機能	・文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設



※国土交通省道路局HPより

2. 計画コンセプト

(1) スローガン

この道の駅整備にあたって柱となる考え方、また、市民の皆様へ、この道の駅のコンセプトを伝えていくため、次のとおりスローガンを定める。

「世界遺産への玄関口 歴史と自然と海山里の幸に溢れ 行ってみたくなる道の駅」

(2) 基本テーマ

山陰道の利用者・観光客を主なターゲットとしながら、地元の人にも愛され、そして「おもてなし」の心で来客者を迎えることで、多くの人が訪れたいくなる道の駅を整備するため、本市の特性やこれまでの検討委員会や意見交換会での意見を踏まえながら、次の4つを基本テーマとする。

- ①世界遺産石見銀山遺跡への玄関口、観光案内の拠点
- ②山陰道のサービスエリアの代替施設
- ③地元産品の販売や食の提供による産業振興
- ④市民・事業者の参画・利用による地域活性化

(3) コンセプト

基本テーマや道の駅としての基本機能を踏まえ、次のとおりコンセプトを定める。

- ①世界遺産石見銀山遺跡への東西ラインからの玄関口(ゲートウェイ)としての拠点施設機能
- ②地域の魅力を伝え、観光による交流人口の拡大を推進できるような情報発信機能
- ③地域資源を活用し、新しい地域の魅力を創造できる産業振興機能
- ④山陰道をはじめとした道路利用者の安心安全な通行を促すとともに、居心地の良い空間で訪れる人をもてなす休憩機能や市民や来訪者が集う交流機能
- ⑤環境に優しく、多くの人が安心・安全に利用できるための機能
- ⑥防災や災害時における対応をふまえた機能
- ⑦高速バスや路線バスの停留所、周遊バスの運行による交通の拠点としての機能

※①～④については、重点的に取り組みを進めるコンセプトとする。

3. 計画候補地と規模

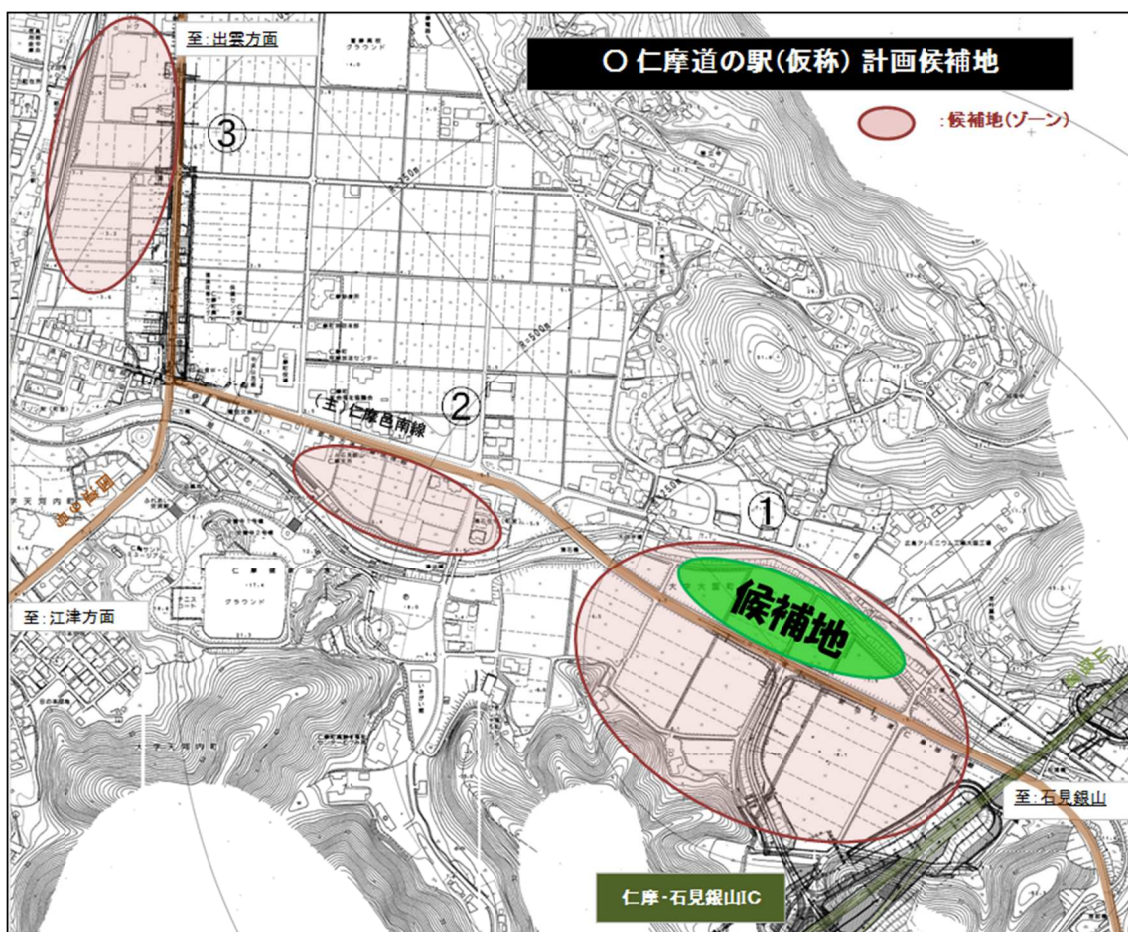
(1) 計画候補地

仁摩・石見銀山インターチェンジの周辺半径1km以内を目安に、次の3つを候補地と想定した。

- ①インターチェンジ出口付近
- ②市役所仁摩支所付近
- ③国道9号沿い仁万駅裏

前述の計画コンセプト、特に、山陰道の利用者の利便性を考えれば、①インターチェンジ出口付近が適地である。

更に、利用者の進入の容易さやアピール性から、インターチェンジ出口の正面を候補地とする。



(2) 規模等

新道の駅の規模は、主要な機能である道路利用者の安全で安心な通行を促すための休憩施設を確保するとともに、世界遺産石見銀山遺跡への来訪者の玄関口としての拠点施設機能など、様々な機能を視野に入れ駐車スペースの確保などを検討すると、概ね1.5～2ha程度の面積が必要となる。

①駐車スペース

山陰道全線開通後の道路状況の変化への対応、及び、石見銀山遺跡をはじめとする市内観光の玄関口としての機能を踏まえながら、ゆとりある駐車スペースを確保する。

②トイレ・休憩スペース

道路利用者が安心して快適に利用できるトイレを基本とし、混雑時にも十分な対応ができる設置個数について配慮する。

③情報発信・地域連携施設など

必要な道路情報を収集できるスペースをはじめ、観光情報・地域情報の提供を行うスペースや、販売スペース、飲食提供スペースなど事業内容ごとの用途に応じた施設を設置する。

④その他

屋外イベントや臨時駐車場、災害時対応ができる多目的に利用可能なスペースを確保する。



※「一般的な道の駅のイメージ」
国土交通省道路局HPより

4. 導入機能の整理

計画コンセプトに基づき、来訪者をはじめとする道路利用者と市民の視点を踏まえ、道の駅に必要な「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」という3つの視点で導入機能を整理すると、以下の機能を設定する。

そのほか、道の駅を整備するにあたり、基本となる機能として「防災機能」の付加や、環境への配慮、ユニバーサル・デザイン等の視点が必要となる。

導入機能		想定される所要室・施設	備考
休憩機能	①道路利用者の休憩	トイレ	女性にも使いやすく
		駐車場	観光シーズンに配慮
		休憩スペース	
	②市民のいこいの場	集会施設	
情報発信機能	③道路・観光情報の提供	道路情報案内	
		市内観光・施設案内	観光案内所の設置
		県・広域観光案内	
		インバウンド対策	
	④地域情報の提供	地域イベント案内	
		U I J ターン情報発信（空き家情報）等	
地域連携機能	⑤地域の産業振興・地産地消の促進	農水産物や加工品・地元製品の販売	
		地元産品を味わう施設（飲食スペース）	海産物の活用
	⑥交流・体験機能	イベントの開催（イベント広場）	神楽
『遊び』体験		レンタサイクル	
『田舎』体験			
その他の機能	⑦防災や環境配慮など	防災に配慮した設備	
		自然エネルギーや省エネ設備	
		景観に配慮した建築や植栽	バッファゾーン
		ユニバーサル・デザイン	
		電気自動車充電設備、ガソリンスタンド	

【機能ごとの具体的な検討内容】

(1) 休憩機能

①道路利用者の休憩

道路利用者が安心して立ち寄り、くつろぐことができる休憩施設を整備する。

○トイレ

*道路利用者が安心して快適に利用できる24時間利用可能なトイレを整備する。

*誰でも使いやすいようユニバーサル・デザインとする。

*特に女性に満足してもらえるように、混雑時にも安心・清潔で快適に利用でき、長い時間待つことがないよう設置個数について配慮する。

○駐車場

*道路利用者がいつでも利用できる、止めやすいゆとりある無料駐車場を整備する。

*誰もが快適に利用できるよう、障がい者用・思いやり駐車場は十分な台数を有し、大型車両用の駐車スペースを配置する。

*バイク、自転車のための駐車スペースを確保する。

*日常的には広場空間として活用できる、臨時駐車スペースの確保を検討する。

○休憩スペース

*ベンチやテーブルを設置し、施設利用者が休憩できるスペースをできるだけ多く確保する。

*乳幼児を持つ子育て家族が安心して道の駅を利用できるよう、授乳室を設置する。

*車中泊者に対応するため、有料のシャワー室、コインランドリー等の設置を検討する。

*手軽な休憩スペースとして、屋外空間にもテラスやベンチの設置を検討する。

②市民のいこいの場

市民が日常的に集い、安らぐことができるいこいの場の機能を持つ施設を整備する。

○集会施設

*集会やイベントが行えるよう、多目的室や屋外広場を設ける。

(2) 情報発信機能

③道路・観光情報の提供

利用者が、周辺の道路情報だけでなく市内や県、広域の観光・イベント情報を入手でき、回遊を促すような情報を提供する。

○道路情報案内

*主要なアクセスとなる山陰自動車道・国道9号をはじめ、周辺の道路の交通状況について、随時情報を提供する。

* 災害発生時の情報提供等についても検討する。

○市内観光・施設案内

* 市内観光のゲートウェイ（玄関口）の機能として、観光情報や周辺施設を紹介し、周辺地域をはじめ市内への回遊を促進する工夫をする。

* 石見銀山遺跡周辺の混雑情報の発信を行い、タイムロスの少ない回遊を誘導できるよう工夫する。

* 観光案内所の設置、観光や地元産品の情報を案内する、コンシェルジュの配置を検討する。

○県・広域観光案内

* 島根県の県央に位置する立地をメリットとし、また東部からの石見への玄関口として、他地域の様々な観光・地域情報発信を担う広域観光の要所となるよう取り組む。

○インバウンド対策

* 観光案内は外国人に対応したものとする。また、免税店についても検討する。

④地域情報の提供

市内各地のイベント情報を発信し、地域の魅力向上につながる取り組みを実施する。

○地域イベント案内

* 市内各地で開催される様々な地域イベントの情報を紹介し、その地域でしか味わえないレアな体験や取り組みについて発信することで、地域の魅力の向上が図れるよう工夫する。

○U I J ターン情報発信（空き家情報発信）、ふるさと納税情報

* おおだの良さ、魅力を伝える取り組みや、移住体験ツアーの実施などのPRに取り組む。

* 空き家情報検索端末の設置など、気軽に情報が得られるように工夫する。

* ふるさと納税についてのパンフレットの設置など情報提供と、ふるさと納税者（一定金額以上）へのお礼としての特産品の取り扱いについて検討する。

(3) 地域連携機能

⑤地域の産業振興・地産地消の促進

地域資源を利用した商品の提供等により、利用者に「おおだ」の魅力を伝えながら、地域の産業振興につながる機能を整備する。

○農水産物や加工品・地元産品の販売

* 農水産物を販売することにより、生産者の販路拡大を図るとともに、市内全域から農水産物を出荷できる体制の構築を進める。

* 地元特産の農水産物等の加工・販売の一体化や、地域資源を活用した新たな産業の創出を

促進するための活動を進める。

* 地元高校との連携を図り、商品開発や販売コーナーの常設などを検討する。

* 地元食材を使った商品の実演販売を行う。

○地元産品を味わう施設（飲食スペース）

* 地元産品を実際に味わい、利用者に楽しんでもらいながら、地産地消を促進するための施設としてレストラン等の飲食コーナーの併設を検討する。特に、「一日漁」に象徴される新鮮な海の幸の提供については積極的に取り組む。

* 試食したものがレストランで食べられる、また、レストランで食べたものが購入できるなど、施設内での連携・工夫により、お客様の満足度と購買意欲を高める。

⑥交流・体験機能

来訪者が各施設をそれぞれに楽しむだけでなく、道路利用者と市民がふれあうきっかけとなる機能を整備する。

○イベントの開催（イベント広場）

* 来訪者や市民の双方が気軽に参加できる「おおだ」をPRする催事や、石見神楽に関連した催し事など、様々なイベントがいつでも開催できるような広場を整備する。

* イベント時以外にも、オープンカフェのスペースや、ワゴン車などによる移動屋台、フリーマーケットの開催などに利用できる工夫を検討する。

○『遊び』体験

* 石見神楽などの郷土芸能を、来訪者が体験できる企画を検討する。

* 仁摩サンドミュージアム、仁摩健康公園との連携によるイベントを開催する。

* 周辺観光施設を巡るためのレンタサイクルの設置や、他にない体験型の移動ツールを検討する。

* 周遊バスの運行やデマンド型交通の導入を検討する。

○『田舎』体験

* 農作業や郷土料理づくり、また自然や環境をテーマとした体験ができる企画を検討する。

（４）その他の機能

⑦防災や環境配慮など

○防災に配慮した設備

* 道路利用者だけでなく、市民に役立つ施設として防災機能の導入の可能性を検討する。

* 災害時に役立つという視点を持ちながら各施設の整備内容を検討する。

***例**	◇休憩機能	→ 防災（バイオ）トイレ、自家発電装置	
	◇情報発信機能	→ 災害情報の提供、災害伝言板	
	◇地域連携機能	→ 支援物資の集積場、避難所・避難場所	など

○自然エネルギーや省エネ設備

*環境に配慮し、省エネルギーで環境負荷の少ない施設として設備や運用の面で工夫する。

*建設の際は、地元産材や、リサイクル資材の利用に努める。

***例**	◇レストラン等の生ごみのたい肥利用（敷地内植栽等への利用など）	
	◇自然採光を多く取り入れた明るい施設	
	◇自然エネルギーや省エネ設備	など

○景観に配慮した建築や植栽

*周辺の景観に配慮しながら、地域の拠点としてのイメージを感じられる特色ある建物となるよう検討する。

*周辺の植生を踏まえながら、緑あふれる植栽とする。

○ユニバーサル・デザイン

*トイレや駐車場をはじめ、すべての施設において、女性・年少者・高齢者・障がい者など、誰もが使いやすい施設づくりを進める。

*屋外から屋内へと安全で移動しやすい動線に配慮する。

*駐車場から施設へのアプローチ（歩行経路）は、できるかぎり段差がないように整備する。

*障がい者用・思いやり駐車場スペースは、施設に近い位置に設置し、雨にぬれずに施設へ行くことができるよう、屋根の設置を検討する。

***例**	◇身体障がい者用トイレ、オストメイト対応トイレ	
	◇分かりやすい案内表示、サインの導入	
	◇施設出入り口のフラット化、スロープの設置	など

○電気自動車充電設備、ガソリンスタンド

*道路利用者へのサービスの充実を図るため、電気自動車の充電スタンドを整備する。

*道路利用者へのサービスの充実、当道の駅への誘因効果を期待し、ガソリンスタンドの設置を検討する。

*水素ステーションについては、整備費等課題が多いが、全国的な動向を注視する。

5. ゾーニング（建物の配置）の基本方針

施設配置を計画するにあたって、基本方針を整理すると以下のとおりになる。

※具体的な施設計画については、整備計画における建設位置の選定や動線計画、施設規模の算定を踏まえて行う。

（1）全体配置の基本方針

- 山陰道、また主要地方道仁摩邑南線からアクセスできるようにし、利用しやすさを確保する。
- 交通量を踏まえ、適正な規模の駐車場やトイレ等の休憩施設を計画する。
- 建築物や修景施設（屋外広場等）は、アクセス道からの見え方に配慮しながら、周辺景観（石見銀山景観保全条例等）に調和したものとする。また、周辺施設との連携についても配慮する。

（2）導入施設配置の基本方針

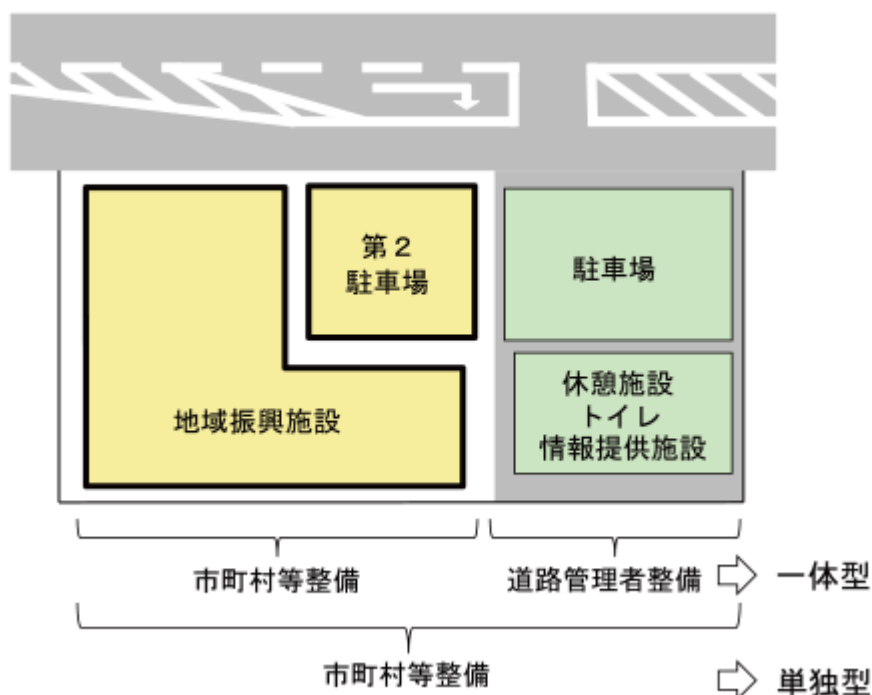
- 基本機能となる休憩施設（駐車場やトイレ）の規模や利用者数の算定等に基づき、各施設規模を設定する。
- 駐車場から各施設が利用しやすくなるよう配慮し、施設内の移動も円滑に行えるように計画する。
- トイレや駐車場については、夜間の利用にも配慮し、道路からの見通しの良さや安全性が確保されやすい位置に計画する。
- 採算性を考慮すべき地域連携機能は、地域のシンボルとしてPRしやすい位置に配置する。
- 交流の場であるイベント広場については、屋内・屋外双方からの利用がしやすくなるよう、付帯施設も含め、配置を検討する。
- 施設配置及び施設内の構造については、フレキシブルな利用可能性に配慮したものとする。

6. 整備・管理手法の検討

(1) 「道の駅」の整備手法

道の駅整備にあたっては、その整備主体の違いから「一体型」「単独型」がある。国・県との連携や財政面を考慮し、本道の駅は道路管理者と大田市が共同で設置する「一体型」での整備により、山陰道全線開通時を目途に供用開始を目指す。

整備主体と整備内容



【用語説明】

一体型：地域振興施設等を市町村等が、駐車場等の一部を道路管理者が整備するタイプ。

単独型：市町村等が「道の駅」を単独で整備するもので、地域振興施設等に加え、駐車場等も市町村等が整備するタイプ。

(2) 管理運営手法の整理

道の駅の整備主体は、地方自治体、道路管理者、公益法人等でなければならない。そのため、管理運営手法は「市が直接管理する方法（公設公営）」、「市が施設を整備し、指定管理者制度のもと民間団体等が運営する方法（公設民営）」、「民間事業者が設計建設を行い、その施設を行政側に譲渡した後、その施設の運営、維持管理を行う（PFI）」などがある。

【管理運営手法】

分類	手法	概要
公設公営	市直営 (テナント契約)	<ul style="list-style-type: none"> 市において直接管理運営を行う方法 トイレの維持管理や販売施設・飲食施設の運営など、施設ごとに業務委託またはテナント方式を取る場合が多い

公設民営	管理運営委託 (指定管理者)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設全体の管理運営を公共的団体または民間事業者等に委託する形態 ・販売施設、飲食施設はテナント方式による場合もある
P F I	P F I 契約	<ul style="list-style-type: none"> ・民間の資金と経営能力・創意工夫（ノウハウ）を活用して、公共施設的设计・建設・維持管理・運営を行う ・発注者はあくまでも公共（事業期間は15～20年が主流）

（3）管理運営手法の比較

道の駅は、ひと・もの・情報が一元的に集まる仕組みを通して、地域振興はもとより、市全体の活性化を図るための拠点となる施設である。そのため、道の駅は公益事業と収益事業の両面を持つ施設であり、収益事業に関しては採算性を確保することがあることから、民間の活力を最大限に活かす管理体制づくりのための検討を行う。

また、P F I 手法による実施については、従来の公共事業に比べ1年程度余分に考える必要があり、本道の駅については、「公設民営」とする。

（4）管理運営に向けての配慮

道の駅は、休憩機能とともに、地域の情報発信や地域の産業振興（地域連携機能）等を担う施設であり、魅力や訴求力のある施設とするためには、施設整備だけでなくソフトの充実が不可欠である。そのため、既設の道の駅においても、官民協働による管理・運営が進められており、本道の駅においては次の点に配慮し、今後検討するものとする。

◆運営団体について

運営団体については、産業振興や地域活性化を重視するこの施設の性質を踏まえ、地元事業者等を中心とした新たな団体の設立や既存の商工団体等が候補と考えられる。

今後、本道の駅のコンセプトを踏まえたうえで、その推進に適した団体を選定する。

◆指定管理料について

誰もがいつでも安心して利用できる道路休憩施設としての道の駅の設置目的に鑑み、採算部門での収益による採算性の確保を基本としつつ、24時間利用に供することが必要条件となるトイレ・駐車場などの（非採算部門）の維持管理については、行政が負担を行う必要がある。

◆提供する商品・サービス・ソフトの品質確保

道の駅を魅力的な施設とするためには、P Rの充実とともに、商品・サービス、その提供方法等のソフトを充実することが必要であり、訴求力のある商品・サービスを提供するための「専

門性」と「品質の確保」に留意した主体・方法を検討する。

◆市民の多様な参画を実現できる体制の構築

道の駅を地域に根ざした施設とするためには、市民の関わりが不可欠である。また、地域産業の振興においては、事業者の参加も必要である。そのため、市民が多様な形（組織や機会）で参画できる体制をつくるよう配慮する。

（5）人員体制の確保

◆駅長の人選

現在、多くの道の駅では、施設運営の現場における責任者として、‘駅長’を配置しており、その働きは、道の駅の魅力度を左右する重要な要素の一つと言われている。

このため、公募による手法を含めて、経営・商品流通・マーケティング等の専門的な実務経験を持つ優秀な人材が確保できるよう努める。また、準備段階において、駅長となる人の意見が反映されるような仕組みとする。

なお、攻めの運営ができるような体制としていくため、外部へのセールスやプロデューサーとしての役割を担う人材についても、あわせて検討する。

◆スタッフの募集・研修

接客の良さは、施設運営において重要な要素である。特に、道の駅は、農水産物等の販売業務のほか、当市にお客様を迎え入れる歓迎ゲートとしての役割を担うことから、「おおだ」の良さを伝えられる、「おもてなし」の接客は不可欠である。

スタッフについては、正社員とパート・アルバイトの雇用が想定されるが、地域の雇用の場となるよう広く募集を行うとともに、上記を踏まえ、オープンまでに十分な研修が行われるよう配慮する。

◆詳細計画（運営計画）の立案

道の駅には、多様な機能・施設が含まれることから、販売や飲食、施設管理などの部門ごとに、詳細な運営計画の立案を行う必要があるため、運営団体の決定後は、市と駅長（候補者）、指定管理者（予定者）との連携・役割分担のもとで進めるものとする。

（6）その他留意事項

◆財源について

財源の確保にあたっては、過疎債や各種補助金の活用を努める。

なお、道路管理者（国または県）との「一体型」道の駅として整備を進める場合は、駐車場、トイレ等は、道路管理者が直接行う事業として実施することになる。

◆持続的に発展する道の駅づくり

道の駅は、オープン後も継続的に施設の魅力維持・向上・発展が求められる。

そのため、オープン後も引き続き、品質の確保、PRの充実といった商品やサービスなどのソフト面の充実とともに、道の駅に対する利用者・地域ニーズを把握するための仕組みづくりについて検討を進め、リピーターの確保とともに、交流人口の増加を図っていく。

7. スケジュール

現時点で想定される予定は下図のとおり。

◆「道の駅」整備フロー

() 現時点で想定する年数

